

## (9) 四国



四国地域では、景気は急速に悪化している。

- ・ 鉱工業生産は大幅に減少している。
- ・ 個人消費は弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は急速に悪化している。

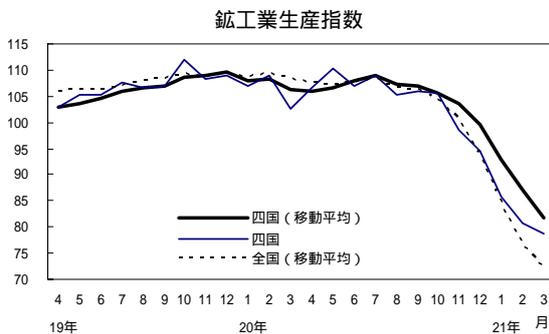
### 前回調査からの主要変更点

	前回（平成21年2月）	今回（平成21年5月）	
景況判断	悪化	急速に悪化	
住宅建設	増加	大幅に減少	
雇用情勢	悪化しつつある	急速に悪化	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は大幅に減少している。

化学は、国内外の需要減退により化学原材料が減少していることから、全体でも減少している。電気機械は、国内外の需要減退により自動車、電子部品向けの計数半導体集積回路、照明やカーライト向けの光電変換素子（LED）などが大幅に減少していることから、全体でも大幅に減少している。食料品は、内食ブームもあり、また、栄養補助食品が堅調で、ほぼ横ばいで推移している。パルプ・紙は、新聞・広告需要の減退を受け、塗工紙などを中心に減少している。一般機械は、建設用クレーンの低迷が動きが大きく、全体でも大幅に減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。  
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

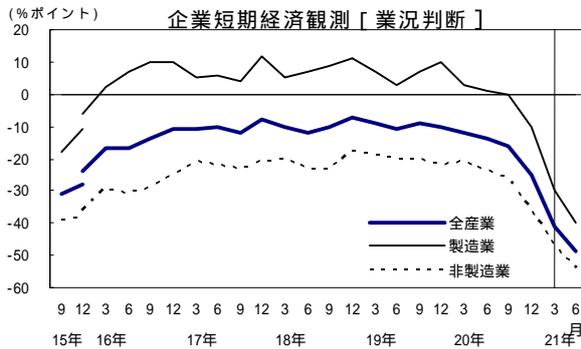
	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
化学	17.1	14.4	10.7	9.1	14.4		
電気機械	15.4	10.4	40.0	37.2	36.2		
食料品	13.6	6.4	0.4	0.9	12.1		
パルプ・紙	11.8	9.9	11.8	7.7	9.4		
一般機械	8.9	3.5	24.3	18.9	9.4		
鉱工業	100.0	6.8	17.9	14.7	10.5		

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

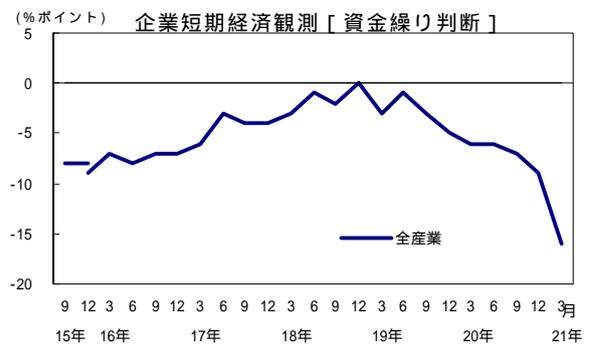
2. 1~3月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

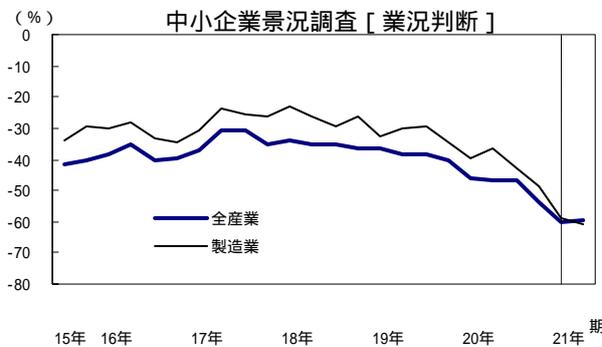
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年6月は予測。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

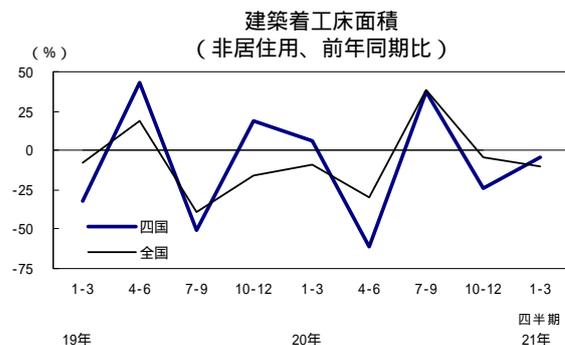
「依然として、国際貨物取扱量、製紙業者や製造業者からの出荷数量は減産体制で推移している。取扱数量も前月並みで推移している(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績見込み	21年度概
全産業	16.3 [ 15.5 ]	19.9
製造業	23.4 [ 18.7 ]	31.4
非製造業	6.4 [ 11.2 ]	6.7

(備考)[ ]は前回(12月)調査結果。



## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費は弱い動きとなっている。

#### 大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、飲食料品は前年並みであったが、衣料品、身の回り品は、初売り・新春セールも不調であったことから、前年を下回った。2月は、飲食料品はバレンタイン商戦で伸び悩み、総菜等も不振であり、天候の影響で冬物衣料品も低調であったことから、前年を下回った。3月は、高額商品の買い控えや天候不順による春物衣料の伸び悩みから、衣料品が低調で、身の回り品も靴やバッグが振るわなかったことから、前年を下回った。なお、中国四国百貨店協会によると、四国地区の4月の売上高は前年同月比で12.7%減となっている。スーパーは、生活防衛意識による買い控えに加え、競合店の影響、天候不順による衣料品の不振が大きく、全体としては前年を下回った。

#### 景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

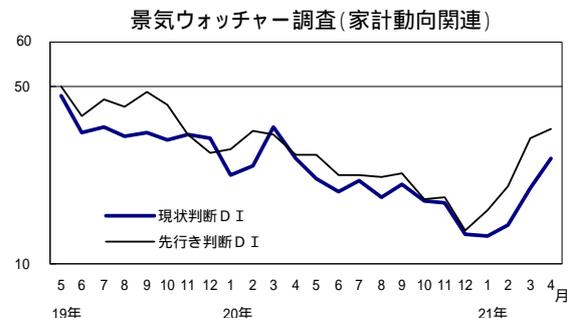
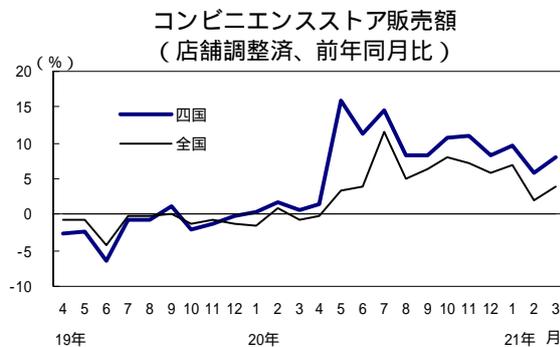
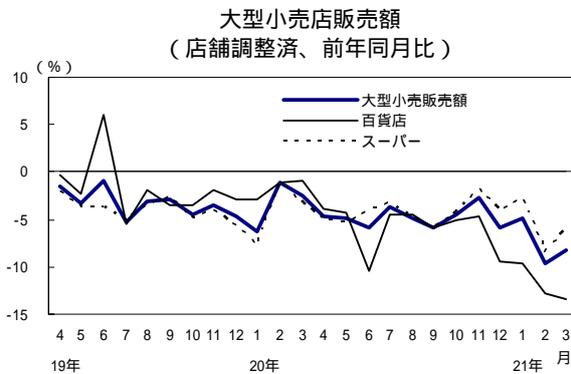
「同業者の前年度の売上や利益は大幅に低下している。給与カット、リストラ、新規雇用も手控えているなどの実態が明らかになっており、依然として景況は悪い(設計事務所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、「4月より自動車関連税制改正が施行されたが、追加対策で購入補助金案が持ち上がり、買い控えが起きている。4月の受注は前年比84.3%となっている(乗用車販売店)」など、「悪くなっている」とする回答もみられた。

(前年同期比、%)

	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月
大型小売店	5.2	4.7	4.5	7.4
百貨店	6.2	4.9	6.7	11.8
スーパー	4.8	4.6	3.5	5.6
コンビニ	9.6	10.3	9.9	7.9
景気ウォッチャー	29.7	27.3	21.5	20.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

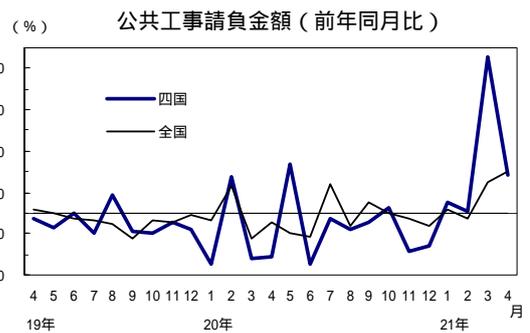
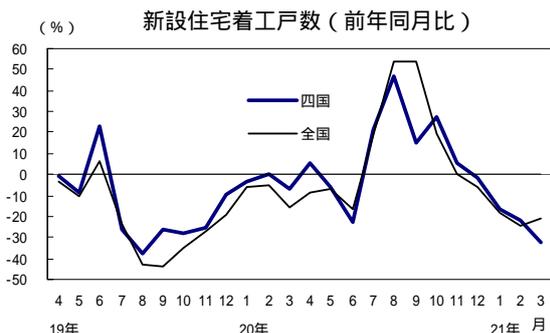
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



### (2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

### (3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

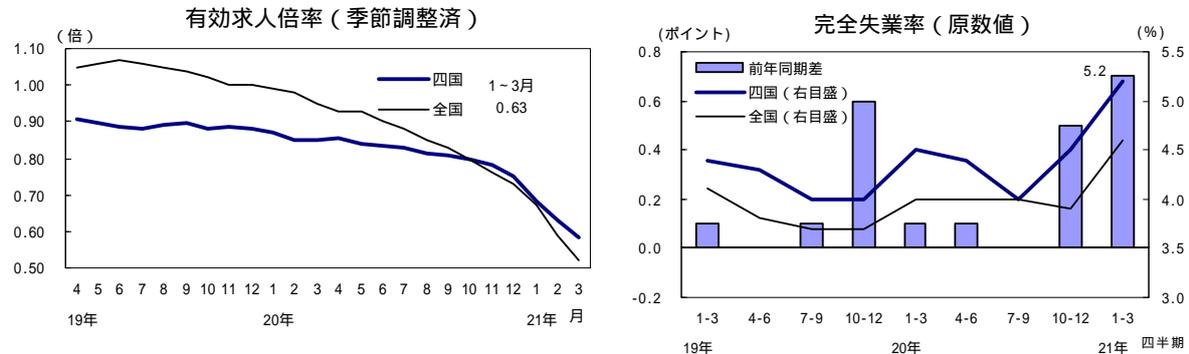


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は急速に悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月)[雇用関連(現状)]

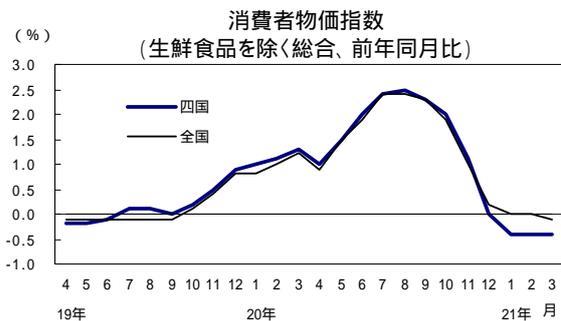
「有効求職者は4か月連続で増加している。また、会社都合による退職者は、前年同期比で160%と激増しているが、この傾向がすでに4か月続いている(職業安定所)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月	21年4月
倒産件数	101	123	104	124	25
(前年比)	4.7	19.4	13.0	49.4	26.5
負債総額	345	375	188	603	55
(前年比)	23.8	22.3	4.5	139.7	55.5



景気ウォッチャー調査 (4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・高速道路料金引下げの影響で県外ナンバーの車が約2倍に増えたが、逆に買い物客等の県外への流出も増加した(商店街)

<先行き>

・先行きの予約状況が良くない。ただし、高速道路料金引下げ効果が若干あり、土曜日の予約なしの駆け込みの宿泊は増えた。しかし、全体的には宿泊・レストランとも減少しており、今後更に悪くなる(都市型ホテル)

